

Date

県内経済 〈2月〉

概況

県内経済は、全体として回復の動きが足踏みしている

電子部品は前年を上回ったものの、木材が前年を下回ったほか、機械金属も低迷が続いている。建設は、公共工事が前年を上回ったが、住宅着工は前年を下回った。個人消費は全体として緩やかに回復している。雇用情勢は弱い動きとなっている。

産業別の動向では、電子部品の生産額は、情報通信技術、ハードディスクドライブ市場向けやAI関連の需要増加などから、9か月連続で前年を上回った。機械金属は、ウエイトの高い輸送機械で、国内向けが大きく落ち込み、24か月連続で前年を下回った。木材の生産量は、普通合板（1月）は住宅着工の低迷などにより、14か月ぶりに前年を下回った。製材品は大雪による原材料入荷の減少などから、2か月連続で前年を下回った。公共工事請負額は、2か月ぶりに前年を上回り、年度累計でも前年を上回った。地元大手（12社）の建設受注額は、

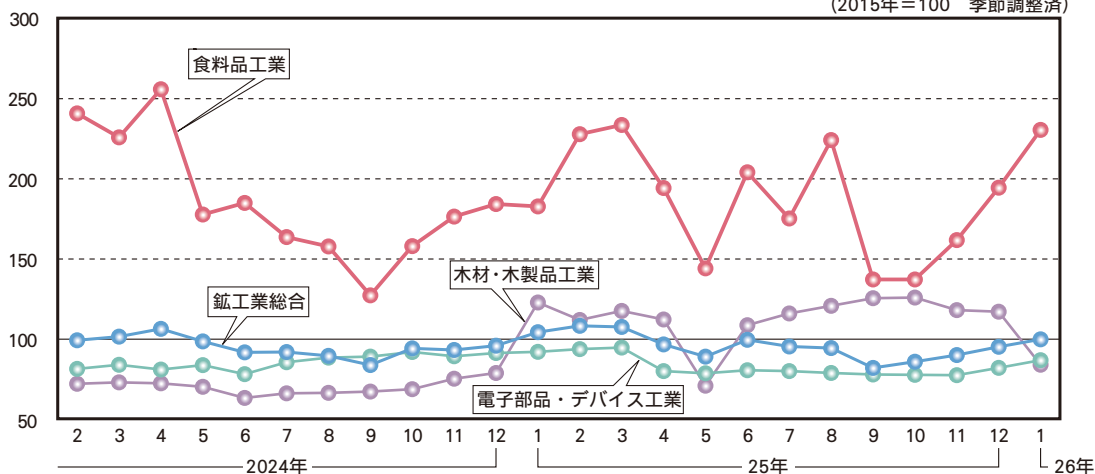
官公庁工事で振るわず、4か月連続で前年を下回った。住宅着工は2か月ぶりに前年を下回った。個人消費は、新車乗用車販売台数が10か月連続で前年を下回ったが、小売店販売額（1月）は15か月連続で前年を上回るなど、全体として緩やかに回復している。

有効求人倍率は前月比0.01ポイント低下の1.22倍となった。新規求人数は前年比0.4%減と3か月ぶりに前年を下回った。事業主都合離職者数は前年比55.7%減と5か月連続で前年を下回った。

企業倒産件数は5件、負債総額は7億1,600万円であった。

秋田県鉱工業生産指数の推移

(2015年=100 季節調整済)



資料：秋田県企画振興部調査統計課「秋田県鉱工業生産指数月報」

電子部品

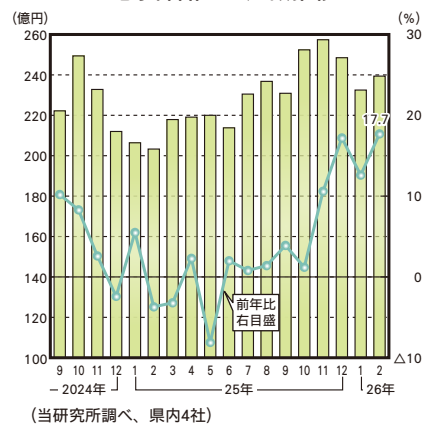
生産額、高水準続く

2月の生産額は前年比17.7%増となり、9か月連続で前年実績を上回った。

車載向けは電気自動車（EV）市場の低迷により減少傾向が続いているものの、情報通信技術（ICT）やハードディスクドライブ（HDD）市場が好調なことに加え、AI（人工知能）関連も増加し、総体では前年比増が続いている。

その他品目別では、主力のセラミックコンデンサやコイルは増加傾向が続いている。液晶パネルは前年の反動による一服感はみられるものの依然高い水準で推移し、半導体素子は一進一退となっている。

電子部品の生産額推移



機械金属

生産額、24か月連続で前年比減少

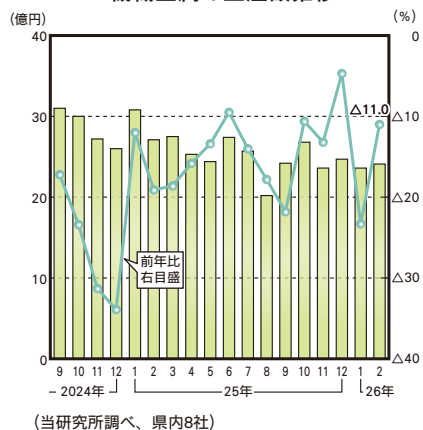
2月の生産額は前年比11.0%減となり、24か月連続で前年実績を下回った。

ウエイトの高い輸送機械は、海外向けは回復傾向にあるものの、一部メーカーの生産終了車両の影響が大きい国内向けの減少幅が大きく、総体で長期にわたり低迷が続いている。

その他民需関連では、減少が続いていた産業機械、建機部品はいずれも持ち直しの兆しがみられ、金型は一進一退の動きが続いている。

公共工事関連では、橋梁・鉄骨、水道部品とも堅調に推移している。

機械金属の生産額推移



木材業

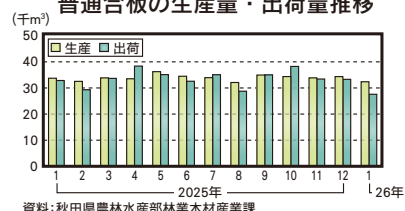
合板の生産・出荷が14か月ぶりに前年比減少

普通合板の生産、出荷は、流通段階での在庫調整が進んでいたこと等により2024年12月から前年比増加が続いていたが、その影響が一巡したことなどにより前年比減少に転じた。

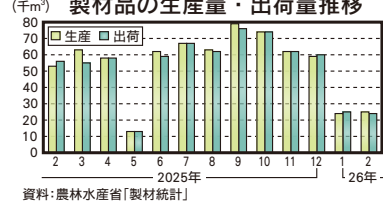
1月の普通合板は、住宅着工の低迷による需要不足等により、生産量は前年比4.0%減、出荷量も同16.0%減と、いずれも1年以上におよぶ前年比増加から14か月ぶりに前年比減少に転じた。

2月の製材品は、大雪による原材料入荷減少等から生産量が前年比52.8%減、出荷量が同57.1%減と、ともに2か月連続で前年比減少となった。

普通合板の生産量・出荷量推移



製材品の生産量・出荷量推移

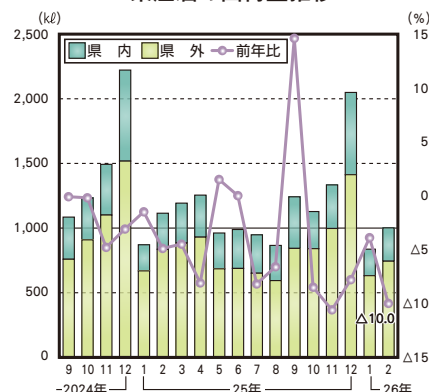


酒造業

出荷量、5か月連続で前年比減少

2月の清酒出荷量は、前年比10.0%減となった。昨年10月に一部メーカーで価格を引き上げた影響などから、5か月連続で前年を下回った。出荷先別では、県内向けは同7.4%減、県外向けは同10.9%減となった。県外の主な出荷先別では、東京都は同7.0%増、北海道も同32.7%増となった一方で、東北5県が同6.5%減となったほか、その他の府県も同33.0%減と前年を大幅に下回った。種類別では、普通酒は同15.4%減、特定名称酒は同4.8%減となった。特定名称酒の内訳では、吟醸酒が同1.3%減、純米酒は同6.7%減となったほか、本醸造酒も同16.0%減と前年を大幅に下回った。

県産酒の出荷量推移



資料：秋田県酒造組合

建設業

公共工事 国、市町村が増加し前年を上回る

2月の公共工事請負金額は、国、市町村が増加し、総体では前年比20.7%増と2か月ぶりに前年を上回った。4月からの年度累計実績は前年同期比12.7%増となった。

一方、当研究所調査による地元大手12社の2月の新規受注額は、前年比11.1%減の1,044百万円となり4か月連続で前年を下回った。うち官公庁工事は、道路改良等の大口工事があったものの、同37.1%減と前年を下回った。民間工事は、卸売業の営業所新築の大口工事があり、同178.2%増と前年を上回った。4月からの年度累計実績は、前年同期比40.3%増となった。

公共工事前払金保証実績

(単位：件、百万円、%)

区分	2月	前年比	4～2月	前年同期比
件数	55	37.5	2,041	△3.6
請負金額	2,772	20.7	172,859	12.7

資料：東日本建設業保証㈱秋田支店

地元大手企業12社受注額

(単位：百万円、%)

区分	2月	前年比	4～2月	前年同期比
官公庁	649	△37.1	26,090	76.6
民間	395	178.2	4,467	△36.2
合計	1,044	△11.1	30,557	40.3

(当研究所調べ、県内12社)

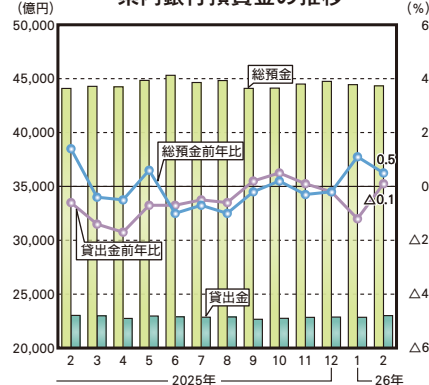
金融

貸出金、前年比減少続く

2月末の県内銀行の預金は、前月末比112億円減少したものの、前年比では0.5%の増加となった。貸出金は、前月末比155億円増加したものの、前年比では0.1%の減少となった。預金は2か月連続で増加した一方で、貸出金は3か月連続で前年を下回った。

2月の倒産件数(負債総額1千万円以上)は5件、負債総額は7億1,600万円となった。倒産件数、負債総額とも、倒産が発生しなかった前年と比べると増加したものの、前月比では減少した。

県内銀行預貸金の推移



資料：秋田県銀行協会

住宅着工

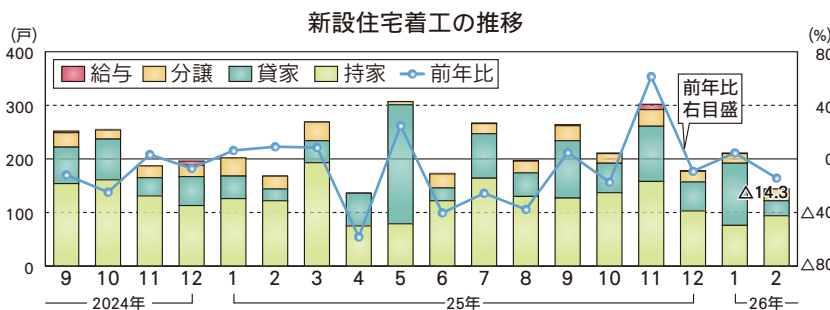
着工戸数、弱い動きが続く

2月の県内新設住宅着工戸数は、144戸（前年比24戸減、14.3%減）であった。貸家は増加したものの、持家と分譲住宅が減少したため2か月ぶりに前年を下回り、弱い動きが続いている。

利用関係別では、持家が94戸（前年比28戸減）、貸家が28戸（同6戸増）、分譲住宅が22戸（同2戸減）、給与住宅が0戸（同横這い）となった。

持家は、3か月連続で前年を下回った。貸家は、秋田市と仙北地域で大幅に増加したほか、横手市でも増加し、3か月連続で前年を上回った。分譲住宅は、3か月連続で前年を下回った。

地域別では、県北は持家と貸家、県央は持家と分譲住宅の着工がそれぞれ減少し、前年を下回った。県南は、貸家の着工が増加し、前年を上回った。



資料：秋田県建築住宅課

住宅着工動向

(単位：戸、%)

区分	2026年2月		26年1~2月	
	前年比	26年1~2月	前年比	26年1~2月
県北	11	△65.6	25	△59.0
県央	97	△4.9	263	22.9
県南	36	5.9	67	△29.5
合計	144	△14.3	355	△4.1

資料：秋田県建築住宅課

個人消費

全体として緩やかに回復している

1月の小売店（商業動態統計主要6業態）販売額は、前年比3.4%増となり、15か月連続で前年を上回った。

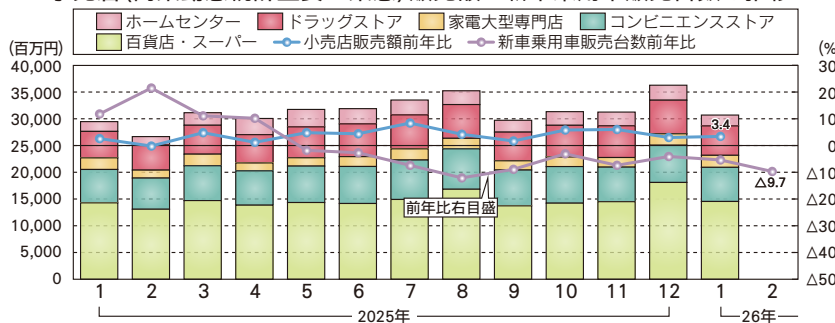
内訳をみると、ホームセンター（前年比10.9%増）、ドラッグストア（同6.3%増）、家電大型専門店（同3.6%増）、コンビニエンスストア（同2.1%増）、百貨店・スーパー（同1.8%増）とすべての業態で前年を

上回った。

2月の新車乗用車販売台数は、新型車等の市場投入不足や「自動車税環境性能割」の廃止前の買い控えなどから、前年比9.7%減と10か月連続で前年を下回った。

内訳をみると、登録車が同16.7%減と10か月連続で前年を下回ったほか、軽乗用車も同0.5%減と2か月ぶりに前年を下回った。

小売店（商業動態統計主要6業態）販売額・新車乗用車販売台数の推移



資料：経済産業省、秋田県自動車販売店協会

2月の新車乗用車販売台数 (単位：台、%)

区分	販売台数	前年比
新車乗用車総販売台数	2,309	△9.7
登録車	1,206	△16.7
普通車	661	△19.6
小型車	517	△11.3
輸入車	28	△34.9
軽乗用車	1,103	△0.5

資料：秋田県自動車販売店協会

県内個人消費関連指標(前年比) (単位：%)

区分	2025年11月	12月	2026年1月
①消費者物価指数	2.8	1.5	0.9
②勤労者名目賃金	2.1	5.4	5.0

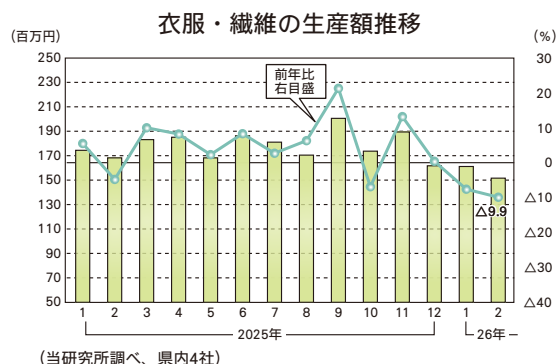
資料：①秋田県（総合指数、秋田市）
②秋田県（事業所規模5人以上）

衣服・繊維

生産額、2か月連続で前年比減少

2月の生産額は、前年比9.9%減となった。気温の低下により、百貨店等で春物の動きが弱く、2か月連続で前年を下回った。

受注は、業界の端境期の影響などから、2か月連続で前年を下回った。また、最低賃金上昇による人件費増加で収益悪化が懸念される。



雇用

弱い動き

2月の有効求人倍率(季調値)は、前月比0.01ポイント低下の1.22倍となった。常用の内訳では、一般は同0.05ポイント低下の1.36倍、パートは同0.02ポイント低下の0.90倍となった。

新規求人数は前年比0.4%減となり、3か月ぶりに前年を下回った。産業別にみると、製造業は同16.9%増となった。「木材・木製品」で減少したものの、「電子部品・デバイス・電子回路」「食料品」で一部の企業の業績好調にともない増加した。非製造業は同2.2%減となった。「運輸、郵便」「卸売、小売」などで増加したものの、「医療・

福祉」で施設の廃止や求人条件の見直しのため減少したほか、「生活関連サービス、娯楽」で一部のゴルフ場が大雪の影響で求人の提出を遅らせたことから減少した。

新規求職者数は前年比0.2%減となり、3か月ぶりに前年を下回った。

事業主都合離職者数は前年比55.7%減となり、5か月連続で前年を下回った。

地域別雇用状況(パートを含む常用)をみると、新規求人数は県北、県央、県南でいずれも減少した。有効求人倍率は県北が最も高く1.40倍、県央が1.16倍、県南が1.04倍となった。

業種別・新規求人内訳および新規求職者数(全数)

区分	2026年1月		2月		
	前年比	前年比	前年比	前年比	
新規求人計	8,626	10.2	7,421	△0.4	
製造業	778	0.5	789	16.9	
主要業種の内訳	食料品	152	27.7	117	8.3
	繊維	91	13.8	84	3.7
	木材・木製品	27	△12.9	30	△6.3
	金属製品	63	△8.7	63	6.8
	電子部品・デバイス・電子回路	89	△5.3	145	54.3
	電気機械器具	49	△15.5	50	8.7
	非製造業	7,848	11.3	6,632	△2.2
	建設	935	4.4	898	△6.8
	運輸、郵便	367	△3.2	325	25.0
	卸売、小売	968	△0.4	954	10.5
宿泊、飲食サービス	703	△4.9	426	△6.6	
生活関連サービス、娯楽	252	△26.3	191	△8.2	
教育、学習支援	138	25.5	124	△3.1	
医療、福祉	1,580	△2.1	1,477	△7.5	
サービス	1,004	△1.7	977	9.3	
新規求職者数	4,481	7.5	4,143	△0.2	
有効求職者数	15,568	4.3	16,986	3.9	

資料：秋田労働局職業安定課
(注) 臨時・季節を含む

有効求人倍率および事業主都合離職者数

区分	有効求人倍率				
	2025年11月	12月	26年1月	2月	
有効求人倍率	一般	1.41	1.45	1.41	1.36
	パートタイム	0.85	0.82	0.92	0.90
	全数(季調値)	1.20	1.20	1.23	1.22
事業主都合離職者数	100	294	217	124	
	前年比	△22.5	△12.0	△11.4	△55.7

2月の地域別雇用状況(パートを含む常用)

区分	新規求人数		有効求人倍率	
	前年比	前年比	前月比	前月比
県北	1,559	△0.3	1.40	△0.05
県央	3,346	△4.9	1.16	△0.03
県南	1,788	△4.5	1.04	△0.04
合計	6,693	△3.8	1.18	△0.03

(注) 臨時・季節を除く